

## ～心臓血管センターからのお知らせ～

### 心臓血管センター医師のお話⑤

#### 『不整脈のお話』



医師 武川 裕之

心臓は1日に約10万回動いており、だいたい安静時1分間に50～90回脈拍があります。健全な人でも1日に数回～数十回は脈が乱れます。その多くは期外収縮という危険性の低い不整脈です。脈の結滞を自覚する人もいますが、多くは無症状で健康診断で指摘されても問題ないことがほとんどです。

治療対象となる不整脈には大きく分けて徐脈性(脈が遅くなる)と頻脈性(脈が早くなる)があります。徐脈になると目眩、ふらつき、息切れなどが生じ、頻脈になると動悸が生じるようになります。どちらも重篤になると失神し突然死に繋がることもあります。不整脈の原因の多くは原因不明で加齢性に生じますが、薬の副作用や腎臓の機能障害によるものなどあり、まずは病院を受診し検査をすることを勧めます。

受診した時症状はなくても、ホルター心電図という自宅で1日分の心電図を記録できる小型の心電図記録装置(図1:ホルター心電図)や、植え込み型心臓モニター(図2)といってUSB程度の大きさの記録装置を日帰り手術で胸に植え込み、2～3年分の心臓の動きを記録可能な装置を用いて隠れている不整脈を探ることが可能です。

治療対象となる不整脈が見つかった場合は、内服薬やペースメーカ、カテーテル治療などで治療します。

上記症状があり、不安な場合は心臓血管センター外来までお気軽に御相談ください。



図1 ホルター心電図



図2: 植え込み型心臓モニター

### 臨床工学部

### 『血管内イメージング』のお話

こんにちは、臨床工学技士の菅原と申します。

臨床工学技士は医療界ではまだまだ歴史が浅く、どちらかというとなら方の職種ですので聞いたことがない方もいらっしゃるかもしれません。私達は主に機械を扱う仕事をしています。今回は心臓カテーテル室で使用している血管を「みる」機械をご紹介します。

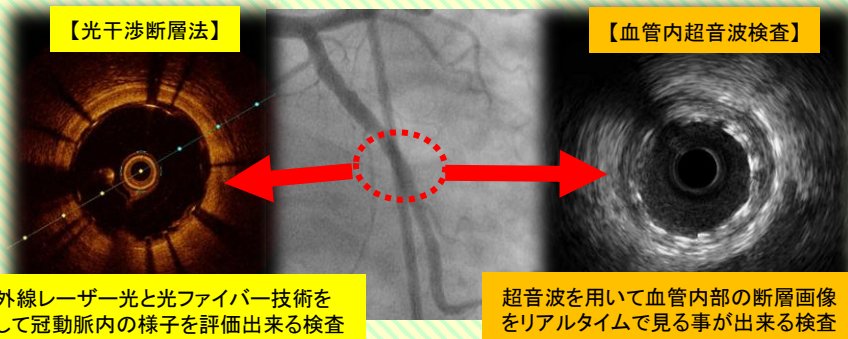
当院の心臓カテーテル室では血管内を「みる」方法として、血管内超音波(以下IVUS)と血管内光干渉断層法(以下OCT)を用いております(右下図より)。その名の通りIVUSは音を、OCTは光を用いて画像を作り出し、血管の中がどのような状態なのかを確認することが出来ます。

放射線と造影剤を用いた画像では二次元画像のため奥行きがなく、重なり合っているところは短く見えてしまいます。造影剤の通ったところは見えますが実際の血管の太さを正確に測ることは難しいです。また、大丈夫のように見えていても実際には血管の中が狭い場合もあります。

小さな血管に行う治療ですので少しのズレが悪さをする場合もあります。そこで、より正確に治療を行うために用いるのがIVUSとOCTです。

皆様により良い治療が届きますように、精進して参ります。

どうぞよろしくお願いいたします。



近赤外線レーザー光と光ファイバー技術を応用して冠動脈内の様子を評価出来る検査

超音波を用いて血管内部の断面画像をリアルタイムで見る事が出来る検査

### お知らせ

※次回は12月発行予定、心臓血管センター医師から『全身血管病のお話』と、臨床検査部から『足関節上腕血圧比(ABI)のお話』予定です。

※乞うご期待ください